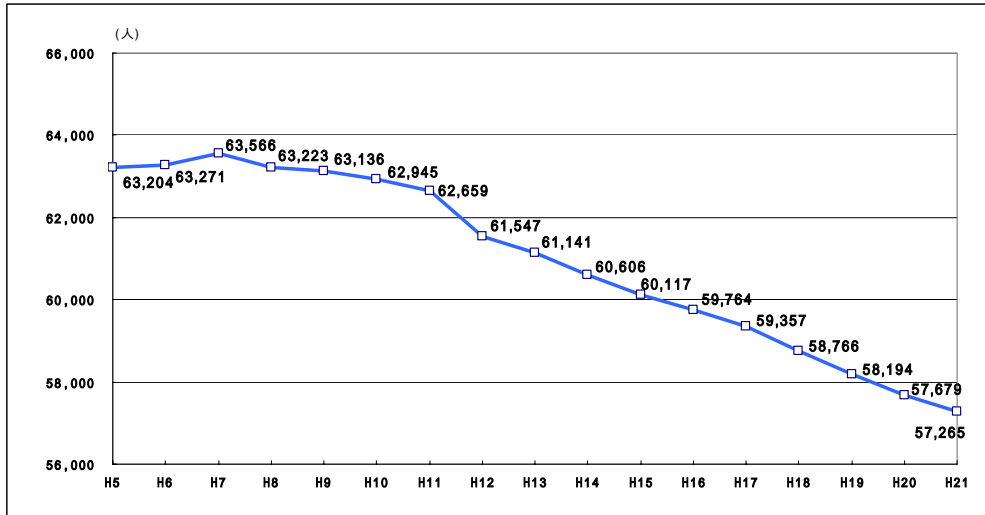


議題 2 . 人口フレームについて

1 . 本市の人口状況

(1) 総人口の推移

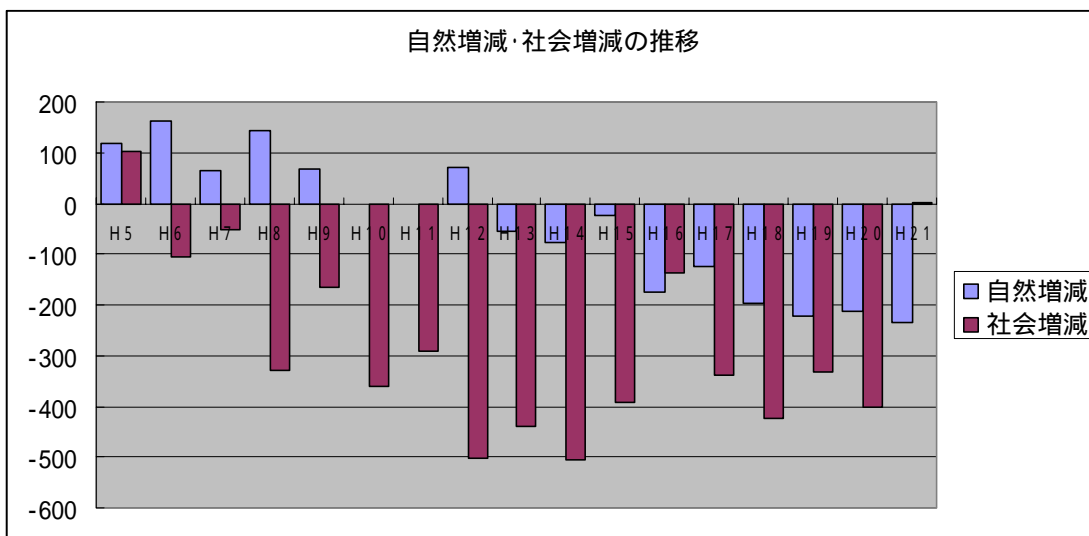
平成 5 年から平成 7 年までは、増加傾向であったが、平成 7 年以降減少傾向に転じている。



(出典 : 宮城県推計人口 (塩竈市))

(2) 塩竈市の人口動態

自然増減は平成 12 年まで自然増加 (死亡数より出生数が多い) 状況にあったが、平成 13 年以降は自然減少の状況にある。一方、社会増減は平成 6 年以降減少傾向にあり、平成 7 年から平成 12 年は社会減少数が自然増加数を上回ったため、総人口が減少傾向にあり、平成 12 年以降は自然増減、社会増減ともに減少傾向にあることによる、総人口の減少となっている。



(出典 : 住民基本台帳人口)

	H8-12	H13-17	H18-21
社会増減	1,647	1,810	1,158
平均	329	362	290
自然増減	277	455	866
平均	55	91	217

平成 5 年から平成 7 年の人口増加要因

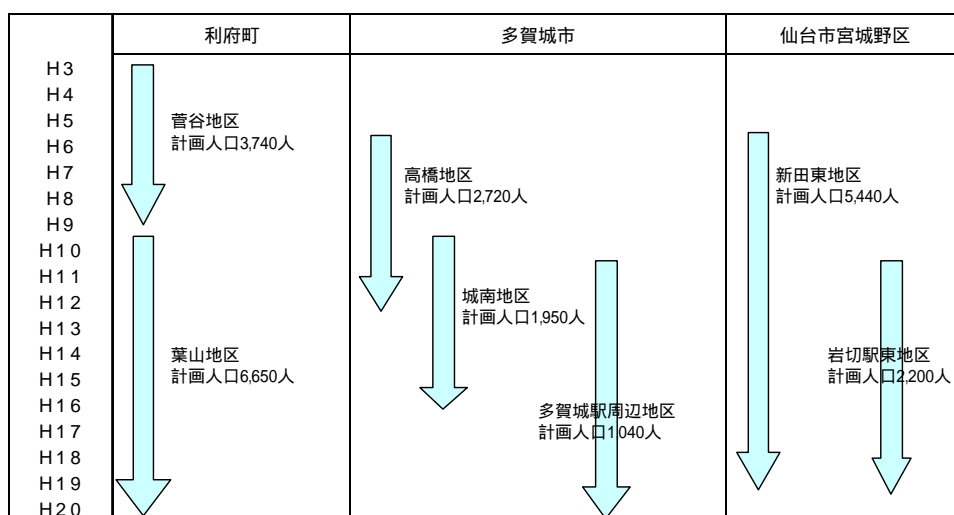
- ・ 平成 6 年以降、他市町村への流出人口の増大による人口減少がみられるが、平成 7 年度までは自然増加傾向にあり、総人口としては増加傾向にあった。
- ・ 市内の大規模開発による住宅供給が一段落し、周辺市町村（利府、多賀城、仙台市宮城野区）の大規模な住宅地開発により、住宅取得者の流出がみられる。

平成 7 年から平成 17 年の人口減少要因

- ・ 周辺市町村（利府、多賀城、仙台市宮城野区）の大規模な住宅地開発により、住宅取得者の流出がみられる。
- ・ また若年層の就学・就業での流出もみられるため、社会流動は一貫して減少傾向となっている。

平成 18 年から平成 21 年の人口減少要因

- ・ 平成 18 年から 21 年の社会増減の年平均は 290 人となっており、平成 13 から 17 年の年平均 362 人から減少傾向になっている。一方で、自然増減は 91 人から 217 人と大幅に伸びており、自然減による影響が大きくなっている。
- ・ 平成 21 年では社会増減数が 1 名の増加に転じており、今後の動向を注視する必要がある。



(3) 塩竈市の人口構造

平成 12 年と平成 17 年の国勢調査人口を比較し、塩竈市の人口構造の特性について検証を行った。平成 12 年から平成 17 年の 5 歳階層別の変化率をみると、15 歳から 19 歳人口から、全ての年齢階層において人口の減少がみられる。若年層では 20～24 歳が最も減少率が高く、就学・就職時、他地域への流出が多いことがうかがわれる。また、5～14 歳の階層で増加となっていることから、第一次住宅取得年齢層（25～35 歳）での流入が考えられるが、その年代（25～35 歳）では 1 割以上の減少がみられることから、相対的には第一次住宅取得年齢層も市外へ流出者が、市内流入者を上回っている。65 歳以上の減少率は自然要因（死亡）によるものと考えられる。

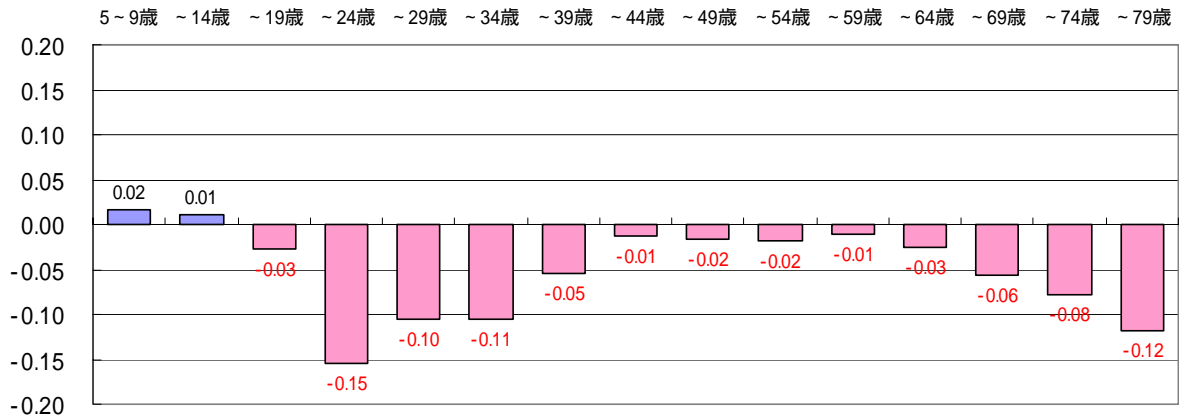
塩竈市の人口減少の大きな要因としては、

就学・就職時の市外流出

住宅取得時の市外流出

が考えられる。

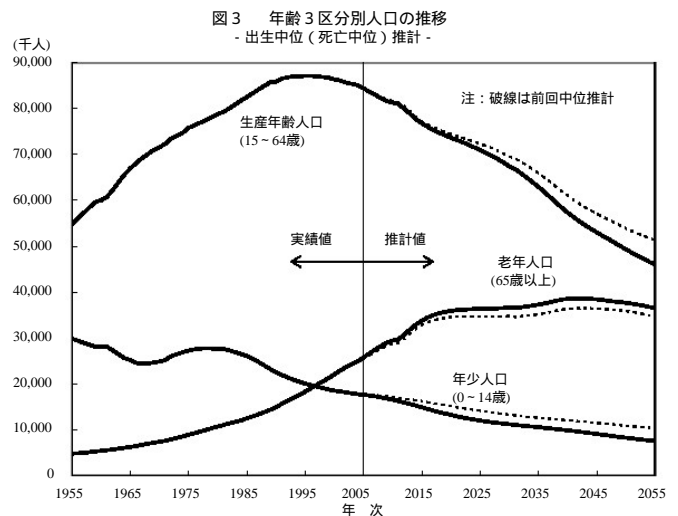
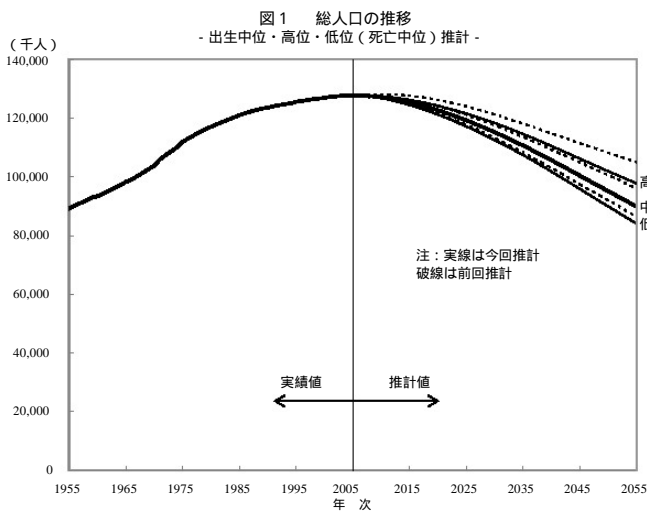
塩竈市の年齢5階層変化率(H12 H17)



2. 国の人口動向

(1) 全国的な人口の動向

日本の人口は、平成 17 年以降は減少傾向にあり、人口構成における高齢化は、国の予測をも上回るペースで進行し、国立社会保障・人口問題研究所の推計では平成 32 年には、ほぼ 3 人に 1 人が 65 歳以上になることが予測(平成 32 年: 老年(65 歳～)人口: 29.2%)されている。



3. 塩竈市の将来人口

国立社会保障・人口問題研究所による推計

平成 17 年の国勢調査による塩竈市の人口は 59,357 人となっており、国立社会保障・人口問題研究所の推計(以下「本推計」という。)によると、将来的にも減少傾向が続くものと予測されており、平成 32 年では平成 17 年と比較して 13.7%減少し、51,201 人となることを見込まれます。

また、年齢別人口の構成比においては、平成 17 年と平成 32 年との比較によると、年少人口(0～14 歳)が 12.6%に対し 9.3%、生産年齢人口(15～64 歳)が 63.9%に対し 56.0%、高齢者人口(65 歳以上)が 23.8%に対し 34.8%となります。

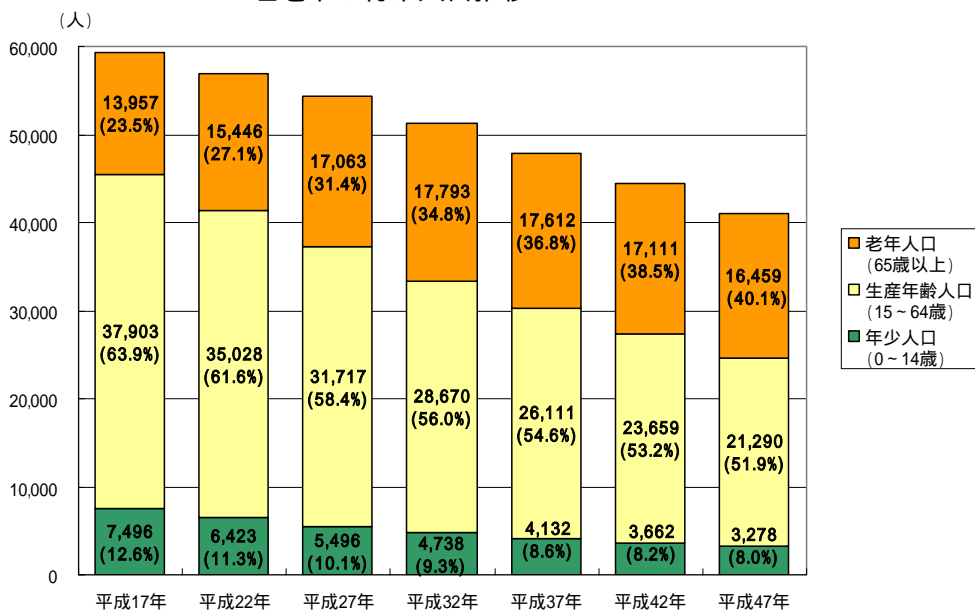
表 塩竈市の将来推計人口

	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総数	59,357	56,897	54,275	51,201	47,858	44,431	41,025
年少人口 (0～14歳)	7,496 12.6%	6,423 11.3%	5,496 10.1%	4,738 9.3%	4,132 8.6%	3,662 8.2%	3,278 8.0%
生産年齢人口 (15～64歳)	37,903 63.9%	35,028 61.6%	31,717 58.4%	28,670 56.0%	26,111 54.6%	23,659 53.2%	21,290 51.9%
老年人口 (65歳以上)	13,957 23.5%	15,446 27.1%	17,063 31.4%	17,793 34.8%	17,612 36.8%	17,111 38.5%	16,459 40.1%

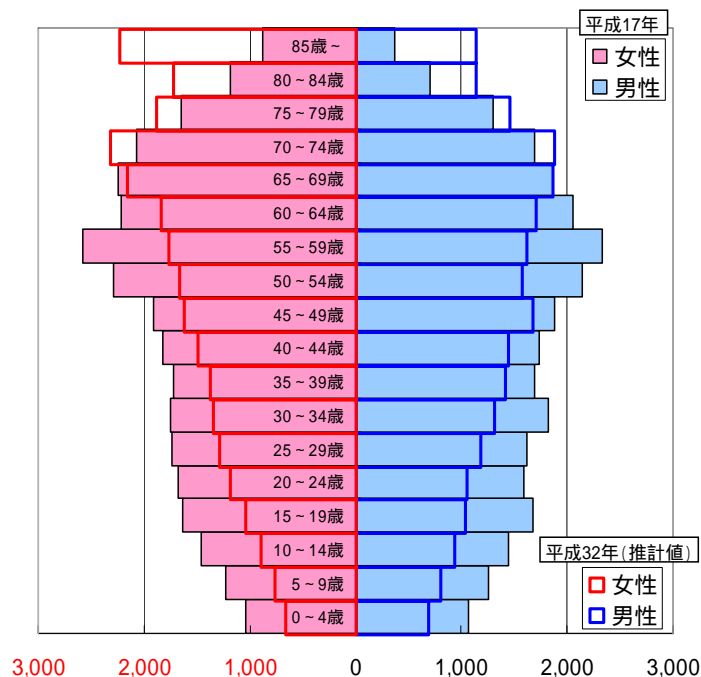
上段：実数（人） 下段：構成比（％）四捨五入の関係上、構成比の合計が100％とならない年があります。

（出典：国立社会保障・人口問題研究所）

塩竈市の将来人口推移



人口ピラミッド(平成17年と平成32年との比較)



4. 人口フレームの設定について

コーホート法に基づく推計人口に対して、長期総合計画に位置づけられる施策展開による効果を考慮し、将来目標人口を定めていくことを考えている。

表 塩竈市の将来推計人口

	平成 32 年推計人口
国立社会保障・人口問題研究所	51,201 人
将来目標人口	55,000 人

新長期総合計画で想定される人口減少抑制のための施策（例）

人口減少プロジェクト

- 1) 生活環境の向上...コンパクトシティを生かした身近な生活環境の向上
 - ・市街地の再整備・交通体系の整備・良好な生活環境の整備
- 2) 子育て支援や教育環境の充実...意向調査の若年層の意向反映
 - ・子育て支援...待機児童ゼロ・地域での子育て支援
 - ・教育の充実...学力向上・特色ある教育・
- 3) 産業振興による雇用の創出
- 4) 中心市街地活性化による中心部への居住の促進
 - ・中心市街地の未利用地の高度活用による住環境の整備
 - ・空き店舗を活用した新たな事業の展開による賑わい創出
- 5) 北部地区街路整備に伴う宅地開発や市街地区域内の未利用地
- 6) 公的住宅の環境整備による居住の促進
 - ・サンコーポラスの活用
 - ・子育て世帯支援や高齢者優遇住宅の検討
- 7) 空家等の活用...賃貸用(1010)・売却用(140)空家の活用
 - ・民間住宅借り上げや家賃補助による住環境の整備
- 8) 観光交流の促進による交流人口の増加策...交流人口 1000 人 定住人口 1 人
 - ・地域資源の発掘とこれを活かす市民活動
 - ・市のイメージアップと情報発信
 - ・観光を切り口とした産業の連携強化
 - ・姉妹都市の活用による観光事業の展開